

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	熊本県	市町村名	熊本市	大学名	
派遣日	令和 3年11月 2日(火曜日) 14:00~16:30 ※派遣当日の次第、研修実施要項等は別添の通り。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / 遠隔				
派遣場所	オンライン開催のため該当なし				
アドバイザー氏名	福岡市立松島小学校 西村 綾子 校長先生				
相談者	熊本市教育委員会事務局 学校教育部 指導課				
相談内容	○子どもの日本語教育の理論と方法、言語と認知の発達に関するもの ○日本語指導の教材・教具、指導プログラム・指導計画の作成について ○先進校の実践について ○効果的な指導方法について(日本語教室での受け入れ人数や指導時間に限界がある。また、年度途中の新規編入に対する指導が十分行えない。) ○多国籍化、多様化する外国人児童生徒への指導体制と関係機関等との連携 ○日本語指導を系統的かつ継続的に実践するための「個別指導計画」作成 ○日本語指導の終了の判断について ○中学生の進学・進路指導について				
派遣者からの指導助言内容	<p>1 福岡市における外国人児童生徒等教育の現状についての説明</p> <p>(1)福岡市における外国人児童生徒の実態</p> <p>(2)福岡市における日本語指導の体制について</p> <p>(3)福岡市における受け入れ体制づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none">・校長会への説明資料・・・すべての学校に説明し、情報共有してもらう。・多言語版のガイドブックの作成・・・学校生活の説明など・言葉に関するサポート (語学ボランティアの派遣 多言語対応 TV 電話通訳サービス等)・関係機関との連携が大切(JSL日本語指導教育研究会) <p>2 日本語指導の計画と実践</p> <p>(1)日本語指導の目的・・・再度確認する。</p> <p>(2)受け入れから指導・評価までの流れ</p> <p>①面談・測定 → ②判断 → ③指導計画作成 → ④指導・評価 → ⑤日本語指導終了</p> <ul style="list-style-type: none">・分かりやすいプレゼンによるそれぞれの段階についての説明があった。・外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLA(必読書2)について <p>(3)カリキュラム(個別の指導計画)作成</p> <ul style="list-style-type: none">・市販の書籍や他都市の事例を参考にするとカリキュラム作成は難しいものではない。共通のカリキュラムを作ることで、市全体で系統的な指導が可能になる。 <p>(4)指導の実際</p> <ul style="list-style-type: none">・サバイバル日本語 ・日本語基礎 ・技能別日本語 ・日本語と教科の統合・教科の補習 <p>○日本語と教科の統合指導</p> <ul style="list-style-type: none">・授業づくりのステップ ・目標設定に向けて				

	<ul style="list-style-type: none">・指導事例（日本語の目標設定に向けて：小4 理科 『物の温度と体積』）・目標の設定から効果的な支援へ 小学校 JSL カリキュラム「解説」（参考書籍） <p>①学習内容→②目標達成に必要な日本語の語彙や表現・文型→③具体的な支援</p> <p>3 在籍学級での学習支援</p> <p>(1)「外国人児童生徒受け入れの手引き」（必読書1）</p> <p>それぞれの立場における役割が説明してあるので、ぜひ、読んでほしい。 文部科学省の指導者用研修動画、受け入れに関する資料動画も参考にしてほしい。 文部科学省情報検索サイト・関連 HP も参考になる。</p> <p>(2)学級担任、校内での指導においては、次の3点が大切である。</p> <ul style="list-style-type: none">①受け入れ体制の整備②どの子にもわかりやすい授業づくり③安心して学べる・生活できる環境づくり <p>指導体制を整えることで、「日本語を使って学校生活を営むことができるようにする」、「学年相当の学習言語を使って、日本語で学習活動へ参加できるようにする」ようにしてほしい。</p> <p>(3)教育のユニバーサルデザイン</p> <ul style="list-style-type: none">・どの子にも分かりやすい授業づくり、安心して学べる・生活できる環境づくりのために大切である。・より多くの子どもたちにとって、分かりやすく、学びやすく配慮された教育のデザイン（星槎大学大学院 准教授 安部俊彦氏）で、「授業のUD化」、「教室UD化」、「人的環境のUD化」をそれぞれの児童生徒に合わせ工夫していくことが大切である。・子どもに寄り添った支援、日本に来てよかった、頑張っていこうという気持ちになるような工夫をしていきたい。 <p><質問について></p> <ul style="list-style-type: none">・母国のことを紹介する活動ができる場合は、自信をもって紹介できるように支援していく。他の子の世界を広げるチャンスになる。・高校進学については、日本語指導のプログラムの「技能別日本語」「教科の補習」に位置付けて指導していく。・私たちは言葉の指導を通して「子どもの世界が広がる」ことにたずさわっている、という講師の先生の言葉が参加者の心に残った。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none">○日本語指導者の意欲が一層高まるような大変有意義な研修だった。今回は実施できなかった授業参観等、対面で西村校長先生の指導を受けたいという声も多く、次年度も研修の機会を得ることができればありがたい。○日本語指導者だけでなく、在籍校の担任にも参加してもらった。参加者の声を本市の課題の一つとして受け止め、次年度以降も市教委主催の外国人児童生徒等教育研修会を開催し、日本語指導が必要な児童生徒等の指導・支援体制を充実させたい。○福岡市の日本語指導体制を参考に、熊本市教育委員会とセンター校及び各学校との連携体制をより充実していきたい。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。